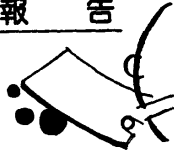


## 報告



## 第8回世界コンピュータ会議報告†

IFIP Congress 80

## 1. 第8回世界コンピュータ会議の成果と意義

実行委員長 尾関雅則

第8回世界コンピュータ会議、すなわち、IFIP Congress 80の東京大会が1980年10月6日から9日まで東京池袋のサンシャインシティを主会場(開会式は国立劇場が使用された)として盛大に開催された。また、ほぼ時期を同じくして(10月3日～8日)晴海の展示場でIFIP、データショウおよびMEDINFO 80による合同の展示会が行われた。

IFIPのCongressを日本で開催したいという希望は、10年以上前からの懸案であり、永い間の関係者の努力と、諸外国、殊にAFIPSのあたたかい後援によって実現のはこびとなったものであって、このたび、この大事業を無事、成功裡に終了できたことの意義は誠に大きなものがあったといえよう。

Congress 80の開催地は1974年のストックホルムでひらかれたIFIPの総会で、東京とメルボルンを結んで行くことが正式に決定された。このようにアジア太平洋地域でしかも数千料をへだてた二会場を結んで一つのCongressを開催するという企画は、IFIPの歴史にはもちろん、ほかにもあまり例を見ないユニークな発想であって、当時は玉虫色とか妥協の産物とか陰口をいわれたようであったが、7年の歳月を経た今日では、まったくいまの国際化時代にふさわしい、斬新な企画であったとその当時このような決定をされたIFIP首脳陣の先見性に深い敬意をいだかずにはおられない気持である。

このことは“Challenges of a Computer Presence”というテーマが今回採択されたことによっても容易にうなづけるであろう。

1974年から1980年までの6年間、日豪ともそれぞれの立場で準備を進めてきたわけであるが、日本側においては前半の3年は計画委員会が大所高所から、ランドデザインをたてられ、1977年10月に至って、

組織が実施にむけて整備され、賛助委員会と実行委員会が主催団体である情報処理学会の中に設けられ爾來約3年に亘る準備がはじめられた。詳細については次章に述べられてあるとおりであるが、実行委員会のメンバーの献身的な努力と賛助委員会の皆さんの物心両面にわたる絶大なご援助により世界52カ国から見込みを大幅に上まわる2,264人の参加者を迎え、彼等に情報処理部門におけるわが国の実情について、強烈な印象を与えることができたと信ずる。

就中、皇太子殿下ご夫妻のご来臨を賜り国立劇場で行われた開会式は、永井先生のキーノート・スピーチとともに、日本人にはもちろん、諸外国からの参加者にはまた格別新鮮な好印象をあたえたようである。また記念切手の発行、壮大な晴海会場における連合展示会、数々の社交行事におけるホスピタリティー、さらには時を同じくして公開されたパターン認識技術の成果等々に対する評価は、彼等の口から出た“well organized”とか“very impressive”とかいう言葉によっても、うかがわれたところである。

準備の段階においては多くの難関があったがその都度、関係者の皆さんのご努力により一つ一つそれらを克服してきた。また日豪共催のため、両者にまたがる登録の手続、論文集をはじめとする各種印刷物の発行全世界にわたる広報、宣伝など両者の緊密協力を必要とすることがらも多くこれらのための連絡会議が交互に訪問しあって前後4回行われた。二国にまたがるワンピースのCongressという、まだ例を見ない大事業を成功させるにはそれなりの苦勞は多かつたがお互い協力しあって一つの事業を推進してゆくうちに次第に一種の同志感もあがってきわめてよい関係が醸成されたことは大きな副産物であったと思う。

最近、このような大きな国際的行事が多く行われるようになって、その学術的価値が云々されることも間あるように見うけられる。学会の行事である以上その発表論文のレベルの高さは当然、追求されてしかるべきであるが、このような大きな世界的な行事の意義

† A Report of the 8th World Computer Congress.

は、同じ仕事にたずさわる世界の人々が時期を同じくして、一箇所に集まり、そこに新しく、多くの人間同志の交流がはじまり、それが今後むけて発展してゆく出会いをつくるところに別の大きな意義があると思う。

このような観点からすれば、祭典的要素も大へん重要であるといわざるを得ないであろう。おまつりは、永年この Congress を、わがものとしてはぐくみ育ててこられた情報処理学会の主催であったればこそ成功したものと確信する。

再びここに、関係各位の奉仕的なご努力と IFIP 本部および豪州コンピュータ学会をはじめ諸外国の学会のご協力に深甚な謝意を表する次第である。また準備の進行中に志しなからばでなくなられたお二人の同志があったことも追記しておきたい。

有難うございました。

2. 準備・運営報告

実行委員会事務局長 山本欣子

2.1 委員会の設置

本国際会議の準備・運営のため 表-1 に示すような4つの委員会が情報処理学会内に設けられ、それぞれの目的を果たした。このうち実行委員会が運営を含む最終段階の執行部隊であり、表-2 に示すような18機関からの委員で構成された。

表-1 設置委員会

委員会名	期間	メンバー数	主な業務・内容
準備委員会 主査 尾見半左右	自 1975. 4 至 1976. 3	8	1. 会場の選択と交渉 2. 開催場所、期日等に関する IFIP 総会へのプロポーザルの作成等
実行計画委員会 委員長 尾見半左右	自 1976. 3 至 1977. 4	11	1. 開催趣意書の作成 2. 予算案の詳細化 3. 関係諸官庁・企業・団体等への呼びかけ 4. 情報化週間行事との接渉 5. オーストラリアとの接渉
実行委員会 委員長 尾関 雅則	自 1977. 10 至 1981. 3	45	1. 会場の設定 2. 予算案の作成 3. 援助金の募集 4. 全行事の決定と開催準備 5. 参加促進と広報 6. 登録受付 7. 公催の運営 8. 報告書作成
賛助委員会 委員長 山下 英男 (初代会長)	自 1978. 9 至 1980. 12	51 [含顧問]	1. 援助金拠出のお願い 2. 参加促進のお願い 3. 報告とお礼

表-2 IFIP Congress 80 実行委員会

担務	氏名	所属
委員長	尾関 雅則	日立製作所
副委員長	坂井 利之	京都大学
	吉岡 雅忠	日本電子工業振興協会
	田代 雅次	電電公社
委員長代理	安藤 雅孝	富士通
渉外委員会	(長)竹下 英一	日本アイ・ピー・エム
論文委員会	(長)後藤 英一	東京大学 (IFIP プログラム委員)
財務委員会	近谷 英昭	国鉄
兼 CM	(長)瀬野 健治	富士通
登録委員会	沢田 正方	国鉄
	(長)三浦 武雄	日立製作所
	植田 利一郎	日立製作所
	藤本 隆也	日立製作所
展示委員会	(長)大前 義次	電電公社
	飯田 徳雄	電電公社
	佐藤 清俊	日本電子工業振興協会
設営委員会	(長)岡村 晴見	富士通
広報委員会	(長)春日 裕幸	日本アイ・ピー・エム
	工藤 長正	日本アイ・ピー・エム
	根本 昭彦	日本アイ・ピー・エム
	田中 幹男	日本交通公社
	山本 清和	日本航空
出版委員会	(長)渡部 勉	日本電気
	滝口 峯告	日本電気
	池田 始	日本電気
	加藤 勉	North Holland Publishing Company
式典委員会	(長)嶋村 和也	三菱電機
	首藤 勝	三菱電機
	岩田 肇	三菱電機
	野田 享一	三菱電機
催物委員会	(長)鶴見 俊一郎	日立製作所
	(長)玄地 宏	東芝
	山中和 正守	東芝
	前川 正守	東京大学
	庭野 芳雄	東芝
社交委員会	(長)根根 善清	日本ユニバック
	前田 礼正	日本ユニバック
	広野 和夫	日本ユニバック
監査役	関口 良雅	日本通信協力
事務局	(長)山本 欣子	日本情報処理開発協会
兼セッション	(代)八賀 公明	国鉄
兼セッション	梶木 公一	国鉄
兼セッション	荻野 隆彦	国鉄
兼輸送案内	平 峯 克	富士通
	新 田 彬	日立製作所

また賛助委員会は、歴代会長、関連諸官庁および企業・団体等の代表者からなるアドバイザリグループであり、援助金の拠出、参加促進等をはじめ物心両面の賛助をいただいた。

2.2 会議の概要

(1) 会議の名称

和文名 第8回世界コンピュータ会議

英文名 8th World Computer Congress

IFIP Congress 80

(2) 主催

情報処理国際連合 (International Federation for Information Processing: IFIP)

社団法人 情報処理学会

オーストラリア コンピュータ学会

(3) 後援 (日本大会)

日本学術会議 文部省

行政管理庁 科学技術庁

厚生省 通商産業省

運輸省 郵政省

(4) 協賛 (日本大会)

(社)応用物理学会 (社)計測自動制御学会

(社)テレビジョン学会 (社)電気学会

(社)電子通信学会 (社)土木学会

(社)日本エム・イー学会

(社)日本オペレーションズ・リサーチ学会

(社)日本機械学会 (社)日本建築学会

(社)日本原子力学会 (社)日本航空宇宙学会

(社)日本数学会 (社)日本造船学会

(社)日本統計学会 (社)日本物理学会

(社)日本品質管理学会

(5) 会期と場所

1. 会議

会期: 昭和55年(1980年)10月6日(月)~10月9日(木)

会場: 東京・油袋サンシャインシティ (文化会館およびプリンスホテル)

2. 連合展示会

会期: 昭和55年(1980年)10月3日(金)~10月8日(水)

会場: 東京晴海・東京国際貿易センター

3. 豪州大会

1980年10月14日(火)~10月17日(金)

於メルボルン

(6) テーマ

コンピュータへの挑戦: Challenges of a Computer Presence

(7) 学術プログラム

1. 対象分野

以下の10の領域をカバーする。

領域1 情報処理基礎理論

2 コンピュータアーキテクチャとハードウェア

3 ソフトウェア

4 データベースと情報システム

5 コンピュータネットワークと通信

6 科学と産業におけるコンピュータ利用

7 ビジネスと行政への応用

8 社会的, 経済的意味

9 情報処理と教育

10 日常生活におけるコンピュータ

2. 論文件数

日本・豪州両大会における発表件数は下記の通りである。

種別	日本大会	豪州大会	共通件数	合計件数
招待論文	35	34	33	36
応募論文	56	57	0	113
パネル討論	18	20	7	31

応募論文は世界46カ国より595件の応募があり, そのうち113件がIFIPプログラム委員会による審査の上採択された。表-3は国別の論文件数を示す。

第8回大会は二国共催の関係もあり, 従来にくらべパネル討論および招待講演の数が, かなり増えた。ま

表-3 国別論文数

国名	招待論文	応募論文(応募総数)	計	その他の論文 応募国名	件数
1 米 国	13	20 (92)	33	27	ポーランド 17
2 日 本	2	21 (142)	23	28	ユーゴスラビア 6
3 フランス	5	18 (73)	23	29	エジプト 5
4 西ドイツ	3	10 (44)	13	30	台湾 4
5 英 国	2	7 (21)	9	31	東ドイツ 4
6 豪 州	1	5 (31)	6	32	ニュージーランド 3
7 カナダ	3	3 (14)	6	33	ベネズエラ 3
8 ソ 連	3	3 (15)	6	34	ブラジル 3
9 イタリア		4 (26)	4	35	オーストリア 2
10 イスラエル	1	2 (4)	3	36	ベルギー 2
11 スウェーデン	1	1 (9)	2	37	ポルトガル 2
12 フィンランド	1	1 (2)	2	38	サウジアラビア 2
13 スイス	1	1 (2)	2	39	アイルランド 1
14 イ ン ド		2 (16)	2	40	アルゼンチン 1
15 ハンガリ		2 (9)	2	41	タイ 1
16 オランダ		2 (6)	2	42	西サモア 1
17 スペイン		2 (5)	2	43	ナイジェリア 1
18 南アフリカ		1 (6)	1	44	トルコ 1
19 イ ラ ク		1 (4)	1	45	韓 国 1
20 ノルウェー		1 (3)	1	46	香 港 1
21 チ リ		1 (3)	1		
22 中 国		1 (3)	1		
23 デンマーク		1 (1)	1		
24 チェコ		1 (1)	1		
25 スリランカ		1 (1)	1		
26 イ ラ ン		1 (1)	1		
計	36	113	149	応募論文総数	595

た採択論文の質も過去最高レベルとの評価があった。なおセッション内容に関しては、IFIPプログラム委員である東大後藤教授より追って報告される予定である。

### (8) 日本大会の日程

1980年 10月	5日(日)	6日(月)	7日(火)	8日(水)	9日(木)
午前	—	開会式 基調講演	学術セッション		
午後	登録 (12:00)	学術セッション			
夕	(22:00)	レセプション	—	Banquet	—

学術プログラムは6日午後から9日まで81のセッションが5会場と並行して行われた。なお全会場で英→日の同時通訳が行われた。

### (9) 参加費

参加者種別	参加費	論文集	参加資格
一般	¥52,000 (1980, 6.30迄) ¥57,000 (1980, 7.1以降)	含む	日・豪両大会
学生	¥15,000	含まず。希望者の参加費は¥20,000	日豪それぞれ一方のみ

## 2.3 日本大会

### (1) 開会式

10月6日(月)9:30より11:00迄、約1,400名が出席し、東京三宅坂の国立劇場で行われた。皇太子殿下ご夫妻のご臨席を仰ぎ、皇太子殿下からは本会議開催を祝しての“お言葉”をいただいた。式後、元文部大臣永井道雄氏による“情報化と学習社会”と題する基調講演が行われた。

### (2) 参加者数

表-4に日本大会の国別参加者数を示す。また国内参加者の内訳を表-5に示す。従来の日米コンピュータ会議等と比べ、参加者層の片寄りが、やや是正された。

### (3) 連合展示会

学術プログラムと並行して Data Show 80, MED-INFO 80 と共催で連合展示会が下記のように行われた。

1. 会 期: 1980年10月3日~8日
2. サブタイトル: "Information Processing Systems for Launching the New Decade"
3. 場 所: 東京晴海・東京国際貿易センター、東館、西館、南館

表-4 Number of Participants (Japan Segment)

Country	Number	Press
Argentina	5	
Australia	58	2
Austria	7	
Bahrain	3	
Belgium	8	
Bermuda	2	
Brazil	2	
Bulgaria	7	
Canada	32	
Chile	1	
China, Peoples Rep. of	17	1
Cuba	1	
Czechoslovakia	1	
Denmark	12	2
Egypt	1	
Fiji	1	
Finland	16	
France	69	2
FRG	40	5
Gabon	4	
GDR	5	
Hong Kong	1	1
Hungary	9	3
India	12	
Indonesia	3	
Iraq	2	
Ireland	1	
Israel	5	1
Italy	25	
Japan	1547	82
Korea	5	
Kuwait	2	
Malaysia	1	
Mexico	2	
Monaco	2	
Netherland	45	8
New Zealand	2	
Nigeria	5	
Norway	24	
Philippines	6	
Poland	3	
Saudi Arabia	1	
Singapore	3	
South Africa	4	
Spain	5	
Sweden	51	2
Switzerland	9	
Taiwan	14	
UK	21	2
USA	146	9
USSR	12	1
Venezuela	4	
Total	2264	121
No. of Countries	52	14

表-5 国内参加者内訳

	種 別	機関数	人 数
1	コンピュータメーカ	14	755
2	公共企業体・団体等	10	188
3	大 学	48	177
4	情報処理業	67	127
5	民間企業 (コンピュータ・ユーザ)	84	116
6	エレクトロニクスまたは 電気機器メーカ	33	75
7	研究機関	3	26
8	官公庁・自治体	3	3
9	大 使 館	2	2
10	招待者		36
11	実行委員		42
	合 計	264	1,547

4. 出展社数: 127 (外資系 59, 国内系 68)

5. 展示面積: 9,400 m<sup>2</sup> (会場面積 23,000 m<sup>2</sup>)

6. 来場者数: 約 12 万人

なお、Data Show は毎年 10 月に日本電子工業振興協会と通信機械工業会が共催する情報処理関連機器展示会であり例年 8～9 万の来場者がある。

MEDINFO 80 は、1974 年以来、Congress と同時に開催される IFIP TC-4 (現在は SIG の IMIA) 主催の医療情報科学国際会議であり、今回は Congress の前週 9 月 29 日より 10 月 4 日まで、東京新宿京王プラザホテルで開催された。

#### (4) 記念切手の発行

第 8 回世界コンピュータ会議と、MEDINFO 80 の日本開催を記念して、郵政省より記念切手が発行された。両会議とも、それぞれの参加者全員に記念品として贈呈された。

#### (5) 催物行事

##### ① 催物

セッションと並行して、学術フィルムの上映(24 本: 米 17 本, 日 5 本, その他) パターン情報処理システムの見学や、CAPTAIN のデモンストレーション等が行われた。また 2 コースの技術見学旅行(Technical Tour)と、国内コンピュータメーカの見学(Technical Visit)が行われた。このうちパターン情報処理システムは同じサンシャインシティ内に研究所があったため絶好の見学先となり、予定の収容人数を超過する 449 名が参加した。また国内のコンピュータメーカの工場見学も大きな関心を引き、100 名を超える参加者があった。

なお、会議に先立ち、10 月 2 日、3 日の 2 日間にわ

たり情報処理関連団体と共催で、下記の教育セミナー(Tutorial Seminar)が開催され、約 160 名(海外参加者 14 名)が参加した。

テーマ: 新しいコンピュータ・アーキテクチャ

講 師: Prof. J. Dennis (MIT)

Prof. Arvind (MIT)

#### ② 社交行事

参加者の親睦をはかるため、Reception, Banquet, 歌舞伎観劇会、ファミリープログラム、Optional Tour 等が実施された。いずれも予定を超える参加者があった。

#### 2.4 豪州大会

下記のスケジュールにより行われた。

Oct. 1980	14 Tue.	15 Wed.	16 Thu.	17 Fri.
A. M.	Technical Sessions			
P. M.	Opening Ceremony	—	Technical Sessions	Closing

83 の Session が 7 つの会場で行われた。

豪州大会の参加者総数は約 1,650 であり、日本からの参加は約 60 名であった。

#### 2.5 財 務

本国際会議の会計規模は約 1 億 7,000 万円のオーダとなった。我が国における大規模国際会議の開催は会場費、同時通訳費など多額の費用を必要とし、参加者の登録費のみでは収支相つぐなうことが難しく、前述の賛助委員会の構成企業を中心に援助金の拠出をお願いした。

幸い本国際会議の日本開催の意義に対し、多くの企業の暖かいご理解と賛同を得ることができ、計 64 の企業・団体より予定額を上まわるご協力を頂くことができた。

その結果本会議の収支決算は、予定以上の参加者数および連合展示会の出展社数増などの好条件と相俟って、当初の財務不安を十分解消して余りある成果を収めることができた。また同時に収支の上からも我が国での Congress 開催による国際的貢献を十分果たすことができた。

#### 2.6 報 告 書

IFIP に提出する英文の報告書のほかに、今後の国際会議の参考に資するため、準備・運営の詳細を記録した和文報告書を作成した。情報処理学会に保管されているので、必要な方の参考に供することができれば幸いである。(昭和 56 年 5 月 19 日受付)